

京のセントラルパーク、歴史と自然のストック

京都御苑の魅力を発信

# 京都御苑

## NEWS

Kyoto Gyoen National Garden News

### CONTENTS

- ▶ 光格天皇と南殿の桜
- ▶ 御苑で冬にみられる「きのこ」
- ▶ 京都御苑と生物多様性
- ▶ Art Collaboration
- ▶ 京都御苑に住まいして
- ▶ 京都御苑の自然に想う
- ▶ 御苑界隈そぞろ歩き —金剛能楽堂—
- ▶ 学生コラム —立命館大学—
- ▶ Information

winter  
冬  
第158号  
2023.12.1

京都御苑ニュース

## 光格天皇と南殿の桜 —『源氏物語』「花宴」の情景



閑院宮邸跡庭園冬景色。閑院宮は光格天皇出自の宮家であった

京都御苑の南西角一帯は、閑院宮家の屋敷跡地である。四親王家の一つである閑院宮から第百十九代光格天皇が誕生し、中世以来久しく絶えていた朝廷儀式の復興、天皇の権威回復に熱意をもって取り組み、これらの動きが幕末の勤王への流れを作ったとされる。光格天皇のごうした動きの背景には、源氏物語や和歌に代表される平安朝文化への造詣や歌壇などの文芸ネットワークがあった。京都産業大学教授で近世文学・和歌文学の専門家である盛田帝子氏に、光格天皇の文化的意義について研究されている盛田帝子氏に伺った。

### 盛田帝子

春になるとみごとな花を咲かせる京都御苑の南殿の桜は、歴史的な建造物である紫宸殿の南階段下に植えられた一木で、左近の桜とも称される。おだやかな春の光にまつまれた美しい桜を眺めていると、今から百五十七年前の慶応二年（一八六六）に「ほことりて守れ宮人ここのへのみはしのさくら風そよぐなり」（矛をとって守れ、宮中に仕える官人たちよ。紫宸殿の前の南殿の桜が風にそよそよと音をたてて揺れ動いている）と孝明天皇の和歌に詠まれたことがにわかには信じられない。この和歌が詠まれる二年前の元治元年（一八六四）には長州藩が京都御苑の蛤御門に押し寄せ発砲する禁門の変も起こっており、幕末の激動期の緊迫した宮廷の様子が風にそよぐ南殿の桜に見事に象徴されている。宮廷の人々にとって、南殿の桜は、詩歌の源として特別な存在であったようだ。

南殿の桜が文学史上はじめて描かれたのは、醍醐天皇（在位八九七―九三〇）の御代であった。宮中の紫

### ■イベントのお知らせ

#### 京都御所の通年公開

**公開日**：通年(事前申し込み不要/無料)  
ただし、月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月4日)、行事等実施のため支障のある日は休み  
**公開時間**：12～2月/9:00～16:00(入場は15:20まで)  
**入場門**：御所清所門  
**アクセス**：御苑北西角 乾御門より(地下鉄今出川 ③出口 市バス烏丸今出川 徒歩8分)  
**お問合せ**：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215



京都御所 紫宸殿

#### 京都仙洞御所の参観

事前申し込みに加えて当日受付も行われています。  
**当日受付**：京都仙洞御所にて11時頃から先着順に整理券を配布(満員になり次第終了)。当日受付枠は13:30、14:30、15:30。各時間とも定員は35名。  
**お問合せ**：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

#### 京都迎賓館一般公開

日本の歴史・文化を象徴する京都で、海外からの賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくための国の迎賓施設です。  
**公開日程**：迎賓館のホームページでご確認ください。  
**参観料金**：大人 2,000円 大学生 1,500円 中高生 700円  
**参観受付**：清和院休憩所内  
**お問合せ**：迎賓館京都事務所 ☎075-223-2301

### ■苑内利用施設・サービスのご案内

#### 閑院宮邸跡収納展示館/京都御苑総合案内所

京都御苑南西角の閑院宮邸跡に建つ公家屋敷の風格残る旧宮内省建物の遺構です。展示室では京都御苑の歴史や自然をVR映像などで学べます。また京都御苑の総合案内所として、マップや苑内の見どころなど旬の情報を提供。無料  
**開館時間**：9:00～17:00(展示室は16:30まで)  
**休館日**：年末年始 ※展示室は月曜日閉室  
**アクセス**：御苑南西角 間之町口すぐ(地下鉄丸太町①出口 市バス烏丸丸太町 徒歩5分)

#### 拾翠亭(茶室)

五摂家の一つであった九條家別邸の遺構で、茶室として江戸時代後期に建てられました。



**公開日**：毎週木・金・土曜日、葵祭、時代祭 9:30～15:30 ※諸事情により参観休止の場合あり。参観料 300円(高校生以上)

**貸切利用**：茶会、句会、謡曲等の会合にご利用できます(公開日除く)。有料  
※詳細はホームページをご参照ください。

#### 京都御苑情報館

中立売休憩所に隣接する展示施設。京都御苑のジオラマ模型など御苑全体の歴史や自然を紹介しています。無料  
**開館時間**：9:00～16:30



京都御苑ジオラマ模型 (1/500)

#### 休憩所(レストハウス・売店)

休憩やお食事・喫茶にご利用ください。京都御苑オリジナルのお土産物も多数揃えています。  
**中立売休憩所(『京都御苑 檜垣茶寮』)**  
営業時間：9:00～16:30  
京都御苑前に位置し、御苑の木々に囲まれた「森の休憩所」。中立売駐車場に隣接し、京都御所参観へのアクセスは抜群。セットメニューから軽食、カフェまで木の香る落ち着いた雰囲気の中でお食事ができ、売店「檜垣」では、御所限定のオリジナル商品などを販売。KYOTO-WiFi(無料)も利用可能です。



**近衛邸跡休憩所(『SASAYAIORI+京都御苑』)**  
営業時間：10:00～16:30(月曜日休館)  
京都御苑北西部の近衛邸跡にあり、児童公園に隣接。樹林に囲まれゆったりと和スイーツでカフェタイムをお過ごしください。KYOTO-WiFi(無料)も利用可能。



**清和院休憩所**  
京都御苑東部の京都仙洞御所や京都迎賓館参観口前に位置し、清和院駐車場からも近接。  
**富小路休憩所**  
御苑南東富小路口すぐ、テニスコート隣接。現在無料休憩所として利用できます。  
※詳細はホームページをご参照ください。

#### 京都御苑 自然ふれあいイベント

**京都御苑 冬の自然教室**  
**日程**：令和6年1月開催予定  
**内容**：冬の御苑で見ることのできる生き物を観察します。  
**主催**：環境省京都御苑管理事務所  
**運営**：(一財)国民公園協会京都御苑  
※詳細は決まり次第ホームページなどでお知らせします。



#### 運動施設

**富小路テニスコート(5面)** 有料  
**富小路広場(6面)/今出川広場(3面)** 有料  
軟式野球・ソフトボールなどにご利用ください。  
**申し込み**：(一財)国民公園協会京都御苑



富小路広場 小説『八月の御所グラウンド』(万城目学著)の舞台

#### 駐車場

**中立売駐車場(乗用車・バス併用/乗用車131台・バス16台)**  
利用時間：乗用車 7:00～20:00(24時間出庫可) バス 8:00～17:00  
料金：乗用車 800円(3時間まで) 当日最大料金 1,200円 バス 2,000円(3時間まで)  
●夜間のバス利用について  
利用時間：入庫 17:00～20:00 出庫 翌朝8:00まで 料金：1泊 3,000円  
**清和院駐車場(乗用車専用/81台)**  
利用時間：7:00～20:00(24時間出庫可) 料金：800円(3時間まで) 当日最大料金 1,200円  
※詳細はホームページをご参照ください。

京都御苑Instagram/X(旧Twitter)で最新情報をチェック!



### 編集後記・休刊のお知らせ

**【編集後記】**  
今号は、御所や京都御苑にさまざまな形で関わってこられた幅広い分野の識者の方々にご寄稿いただいた。御苑をめぐる多様な視点や観点から、京都御苑の新たな魅力を感じていただければ幸いです。今号の発刊に向けてご協力いただいた全ての皆さまに心から感謝申し上げます。  
**【休刊のお知らせ】**  
国民公園協会京都御苑においては、約3年にわたるコロナ

の影響を受け、この間の苑内施設の一時的閉鎖や利用者の大幅な減少により依然として厳しい経営環境が続いております。このため経費節減の一環として、誠に残念ながらしばらくの間、京都御苑ニュースの発行をお休みすることいたしました。1984年以来40年の長きにわたり御苑ニュースをご愛読いただいた皆さま方に感謝するとともにお詫言いたします。いずれ何らかの形で、新たに京都御苑からの「情報発信」の場で再会できることを願っています。(発行人 池田善一)

#### 制作・デザイン

株白川書院

国民公園協会や環境省ともご縁があり、京都御苑ニュースの制作に携わってまいりました。長年にわたり御苑ニュースの発行にご尽力された歴代の関係各位の皆さまに厚くお礼申し上げます。(代表取締役 山岡景一郎)

#### 企画・発行/お問合せ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑  
〒602-0881 京都市上京区京都御苑3  
TEL 075-211-6364

#### 監修

環境省京都御苑管理事務所



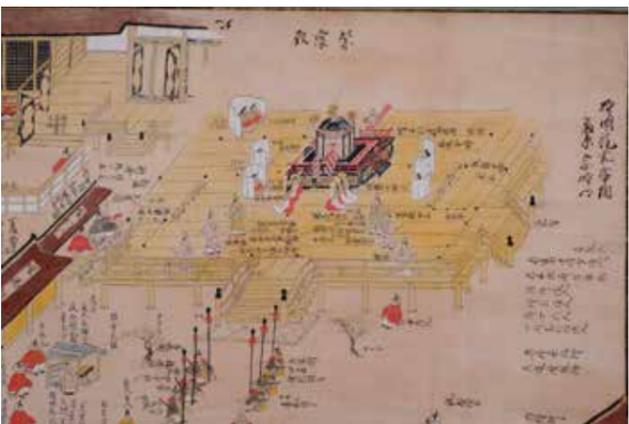
宸殿の前の南殿の桜が散って、南庭に美しく散り積もっているのを見た源公忠(三十六歌仙の一人)は、庭を掃除する主殿寮の官人に「このもりのとものみやつこ心あらばこのはるばかりあさぎよめすな」(拾遺抄)、風流の心を解するならば、この春ばかりは、朝の庭掃除をしないではしい、散り積もった美しい桜の花びらを眺めていたからと呼びかける歌を詠んだ。この公忠の名歌を皮切りに、南殿の桜は文学作品の中に繰り返し描かれることになる。

例えば、紫式部が描いたとされる『源氏物語』「花宴」の冒頭では、源氏が桐壺帝や中宮や東宮の前で優れた詩の才能を示し、舞楽も伴った盛大な南殿の桜の宴の様子が描かれている。ところが、藤田晶子氏によれば、

ば、火災の多かった式部の時代には、一条天皇・中宮彰子は御所ではなく、ほほ一条院で暮らしており、彰子に仕えていた式部も御所の紫宸殿を見ることがなかったという。史実では、紫宸殿で花宴が行われたのは村上天皇(在位九四六―九六七)の時代のみであり、式部は文化的事績が高く評価されていた醍醐・村上朝の「延喜天曆の聖代」(兩天皇の治世を讚美)をモデルのひとつとして、この場面を描いたのではないかとされている。

天明八年(一七八八)の大火で内裏が焼失し、平安時代の様式と規模に復古した紫宸殿の前に南殿の桜を植えて、寛政二年(一七九〇)十一月二十二日に遷幸した光格天皇は、中宮欣子内親王や歌道に秀でた廷臣たちと桜を愛でて宴を催した。まるで『源氏物語』「花宴」に描かれた桐壺帝さながらに。史実の上でたった一度、紫宸殿で花宴を催したのは村上天皇だったが、その宴は、天徳四年(九六〇)平安遷都後の火災で初めて内裏が焼失し、翌年十一月二十二日に新造内裏に遷幸した村上天皇が南殿の桜を植えて催した宴だった。

光格天皇は『源氏物語』のモデルとなった延喜天曆の聖代を理想として在位期間を過ごし、南殿の桜を愛でたのはなかったか。天皇の位を仁



安永九年光格天皇即位図(部分)

孝天皇に譲る前の和歌御会始で、光格天皇は「ゆたかなる世の春しめて三十あまり九重の花をあかず見し哉」(豊かに栄えているこの世の春をわがものとして、在位中の三十九年もの間、宮中の美しい南殿の桜を飽きることなく見たことだ)と詠み、中宮欣子内親王は「見ても猶あかずみはしのさくら花いくよのとしの春をちぎりに」(何度見ても、なお見飽きることがない。南殿の桜よ。いつたいどれほどの長い年月の間、毎春変わらず咲き続けてきたのか)と詠む。



紫宸殿 左近の桜

光格天皇の御代の繁栄と共に成長してきた南殿の桜は、文学史的にみれば、『源氏物語』「花宴」に象徴されるように王朝の雅や王威を象徴する存在であった。眺める宮廷の人々に、かつてあった理想的な王朝の時間や空間を当代に幻視させてくれる特別な桜だったのである。(京都産業大学教授)

特別寄稿

国民公園「京都御苑」を所管する環境省京都御苑管理事務所の田中英二所長に、生物多様性に関する最新の動向を伺った。京都御苑と生物多様性

田中英二

このたび、京都御苑ニュースに執筆する機会を得ましたので、私からは、世界及び国内の生物多様性の議論と京都御苑を関係づけて、お話ししたいと思います。

まず、私も参加しましたが、二〇二二年十二月に、カナダのモントリオールで開催されました生物多様性条約第十五回締約国会議において、生物多様性版のSDGsともいえる、二〇三〇年までの世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。この目標を受け、国内では二〇二三年三月に、「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定されました。



アオバズク



母と子の森

同国家戦略には、二〇三〇年までに、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せるという「ネイチャーポジティブ」という考え方や、二〇三〇年までに、陸・海の三十パーセント以上を健全な生態系として効果的に保全する「30 by 30 (サティ・バイ・サティ)」という目標が掲げられています。環境省では、国立公園などの保護地域の新規指定・区域拡張に加え、



タシロラン

OECMと呼ばれる保護地域以外で生物多様性保全に資する区域の設定・管理の推進に関する検討を進めています。

京都御苑は、公家町が栄えていた場所に整備された国民公園ですが、現在は、環境省所管部分の全域が京都府指定鳥獣保護区に指定されており、アオバズクなどの野鳥の生息地となつています。また、母と子の森、バツが原、コオロギの里、トンボ池など、京都市中心部では貴重な生物多様性が豊かな場所となつています。

環境省京都御苑管理事務所では、こうした自然環境が京都、国内、そして世界の生物多様性に貢献できるように、また、後世にも引き継がれるよう、今後も保全していきます。

京都御苑を利用される皆様におかれましては、京都御苑の生物多様性の重要性を理解し、外来種を逃がさない、野生動物は静かに見守り、エサを与えないなど、京都御苑の自然保護・管理にご協力をお願いいたします。(環境省京都御苑管理事務所長)

▼御苑の自然を楽しみ、育む「ネイチャーポジティブ」▲ 京都御苑で冬にみられる「きのこ」

北出雄生



①ムラサキシメジ(2007/1/8, 苑内)

昨年の秋号(第一五三号)に掲載した本稿では、夏から秋にかけて京都御苑でよくみられるきのこを数種紹介し、樹木と共生する「菌根菌」の生態について解説した。今回はその続きとして、京都御苑で晩秋から冬にみられる「腐生菌」について解説したいと思う。

菌根性のきのこは気温の低下とともに発生が少なくなり、十二月頃にはほとんど見られなくなる。数少ない地上生のきのことしては、鮮やかな紫色のきのこ「ムラサキシメジ」(写真①)があり、ときに菌輪を描いて大発生する。本種は、主に広葉樹の落ち葉を分解して生きている「落葉分解菌」であり、落葉中に白色の菌糸をマット状に発達させているのが特徴的である。京都御苑には多くのシイ・



②エノキタケ(2007/1/8, 苑内)



③ヒラタケ(2007/1/8, 苑内)

ていないが、純白の雪の下で生き生きとした褐色と灰色の傘を広げる様子は大変美しく、ぜひ一度見ていただきたいものである。

ここまで、植物遺体を分解してエネルギーを得る「腐生菌」三種について紹介してきたが、もう少し踏み込んでみたいと思う。木の幹や葉といった植物体の部位はセルロースやリグニンといった高分子の物質から構成されている。「腐生菌」はこれらの高分子を低分子に分解してエネルギー源として利用している。「褐色腐生菌」は、セルロースを分解できるが難分解性のリグニンを分解することができない。

そのため、腐朽材にはリグニンの褐色が残る(写真④右)。この写真の材は褐色腐朽菌のマットウジ等によって分解されたと考えられる。一方で、今回紹介した三種を含む「白色腐生菌」は、セルロースのみならずリグニンを分解する能力を持つため、腐朽材にはリグニンの褐色が残らず、セルロースの白色が残る(写真④左)。ちなみに、この写真には白色腐生菌であるナラタケモドキの子実体が映り込んでおり、この材がナラタケモドキによる分解を受けた可能性が高いと考えられる。御苑内ではしばしば樹木が伐採され、切り株を見かけることがあるが、その材がどちらの腐朽型で分解されていくのかを時間をかけてゆっくりと見続けるのもよいだろう。



④木材腐朽の例(2023/10/1, 苑内) 右は褐色腐朽、左は白色腐朽

前回紹介した「菌根菌」は、樹木に水や栄養分を与える一方で、今回紹介した「腐生菌」は、植物遺体を分解し栄養分を土に還す。それぞれの生き方は大きく異なるが、両者とも京都御苑の数々の大木によって構成された森林を健全に維持することに大きく貢献してきたのである。「きのこ」そのものをみるのも楽しいが、生態系レベルで考えることでより深い楽しみが触れることができるのではないだろうか。(森林総合研究所九州支所特別 研究員/京都御苑きのこ会)

# 京都御苑



## 「国の宝」京都御苑

平安期からの変遷を経て室町期に現在の場所に落ちついた御所の周りは、江戸期には数百軒から成る公家屋敷街となっていました。明治になると東京遷都により一時荒廃しましたが、明治天皇の命により多くの樹木が植えられて公園化が進み、大正期にはほぼ現在の御苑の姿になりました。

今では植樹された木々も大樹となり、鳥や虫など生きものを育む京都の街の中心にあるかけがえのない緑となっています。私自身も中学、大学時代に特に親しんだ場であり、我々京都人にとって御所をいただく京都御苑は心のよりどころでもあります。

都としての悠久の歴史と文化、そして豊かな自然が積み重なる京都御苑は、正に「国の宝」として未来にわたり、子供たちに受け継いで守っていくべき大切なものだと思っています。

国民公園協会京都御苑会長 吉田忠嗣 (吉忠(株)代表取締役社長)

- ① 出水の小川造成工事(1981) / ② 自然保護憲章制定10周年記念自然観察会(1984) / ③ 「母と子の森」植樹式典(1985) / ④ 旧中立売北休憩所展示ホール(1999) / ⑤ 京都迎賓館建設予定地埋文調査(2000) / ⑥ 環境庁から環境省へ(2001) / ⑦ 閑院宮邸跡建物改修工事(2004) / ⑧ カーフリーデー自転車安全講習会@富小路休憩所(2016) / ⑨ 旧中立売北休憩所解体工事 暖炉撤出(2017) / ⑩ 京菓子デザイン公募展@中立売休憩所(2020) / ⑪ 希少種キクタンギク展示@閑院宮邸跡(2020) / ⑫ 京都御苑情報館等オープン式典(2022)

\*写真コラージュの制作に当たっては環境省京都御苑管理事務所のご協力をいただきました



特別寄稿

前上皇侍従で宮内庁京都事務所長も務められた下均(しもがら)氏に、京都御苑での思い出を綴っていただいた。

京都御苑に住まいして

下均

もう二十年も前のこと。人事異動で、京都御苑の南西部にあった官舎に住むことになった。烏丸丸太町に程近い榎木口の傍らにあり、明治末頃できたという年代物であった。

それは、しとしとと湿る梅雨の夜中のことである。「クリユリユツ、クリユリユツ」と絞り出すような不安げな鳴き声が断続的に聞こえてくる。それが夜通し続くのである。もちろん人の声ではない。二日目も続き、ますます気味悪くなる。連れ合

いは蛙かもしれないとも言いが、ひよつとすると鶴では、などと二人して話すうちに夜が更けて、だんだん背筋が寒くなってくる。

鳴き声が三晩続いた翌朝の雨上がり、庭の一辺四方もない小さな池に張り出した小枝に白っぽい泡の塊を見つけた。モリアオガエルの卵だ。鶴ではなかった。モリアオガエルの雄が、産卵させるために雌を呼んでいたのである。渾身の力を振り絞って三晩鳴き続けた雄蛙、その声を聞きつけて、いすこからかびよんぴよんと三日もかかって辿り着いた雌蛙。子孫を残すための必死の営みに大いに感動したことであった。同時

に、こんな街中にモリアオガエルがいる京都の都市としての豊かさに感銘を受けたものである。

初夏の楽しみは、「出水の小川」の螢である。昭和五十年代に環境庁(当時)の管理事務所の職員が苦勞して定着させたと聞いた。短い流れであるので数は多くはなかったが、それで十分だった。人づてで知った人か、たまたま通りかかった人だけが街中の螢を密かに楽しんでた。しかし、ある年、工事のため小川が干上がったことがあり、螢は途絶えてしまった。



モリアオガエルの卵塊(京都御苑トンボ池)



アオバト

天井裏を走り回るイタチには閉口したが、巣作りするアオバズクの鳴き声がすぐ近くで聞こえたし、ドングリを探す美しいアオバトを間近で見ることができた。大文字も名月もきれいに見えた。街の中心部にある広大な京都御苑の空間は、歴史的価値はもちろんのこと、都市環境という点でも京都にとってかけがえのないものに違いない。

そういえば、庭の野菜も良くできた。御苑の住まいは、交通至便の地にありながら誠に野趣に富んだものであった。京都を訪れ、御苑の敷き砂利の中の自転車の「けもの道」を辿れば、ふた昔前の官舎での得難い体験が脳裏に蘇るのである。

(元宮内庁京都事務所長／前上皇侍従)

御苑界限そぞろ歩き

御所の雅な面影を伝える能楽堂

—金剛能楽堂—

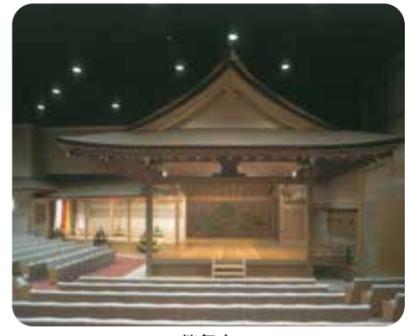
南坊城典子

当館は、四条室町に在った旧金剛能楽堂より百五十年余の星霜を経た能舞台をそのまま移築して中立売御門の西向いに新装開館しました。

開館以来、能や狂言の公演はもとより音楽会や講演会などさまざまな催しが行われ、本年お陰様をもちまして開館二十周年を迎えました。



鳥丸通に面する能楽堂エントランス



能舞台

を本拠地にする金剛流の宗家である金剛家は江戸時代に京都御所に出仕し能御用を勤めていたことから、能舞台の橋掛りの青海波文様や御簾席など禁裏の雅な面影が今も伝わりま

ら野鳥達が飛んできて水浴びをする姿が愛らしく、四季折々の風情や移ろいを感じられます。京都の夏の風物詩「五山の送り火」の夕刻に開催される「大文字送り火能」ろうそく能」は、初めての方にも分かりやすい演目を上演し、ろうそくの灯りのもと幽玄美溢れる公演に毎年各地から多くのお客様にお越しいただき、金剛定期能とともに京都ならではの能楽の魅力をお楽しみいただく催しとなっています。



演能「羽衣」

皆様のご来館をぜひお待ちしております。金剛能楽堂(公益財団法人金剛能楽堂財団学芸員) 京都市上京区烏丸通中立売上ル 龍前町590 電話・075-441-7222 ホームページ: http://www.kongou-ner.com

学生コラム

君たちは雪のささやき聞こえるかい

立命館大学文学部コミュニケーション表現専攻 3回生 河本成美

京都御所のその奥深くに聴雪と名付けられた御茶室があることをご存じでしょうか。御常御殿から迎春、御涼所を越え、渡廊下を過ぎたところにひっそりと佇むその御茶室は1857年(安政4年)に孝明天皇のお好みによって建てられました。聴雪は孝明天皇のプライベートな空間として利用されており、家茂公のもてなしにも使用されました。私はこの「聴雪」というお名前に心を奪われてしまったのです。「雪を聴く」とは、なんて綺麗な名前でしょうか。

ただ、現代人の私たちには、聴く雪と言われてもピンとこないものです。雪の白さや美しさを称えることはあっても、音に焦点を当てた鑑賞はなされてこなかったように思います。けれどもある日、「君たちは雪のささやき聞こえるかい」という俳句を目にしたとき、これは「聴雪」そのものではないかと思ったのです。この句は第13回佛教大学小学生俳句大賞佳作作品の安城紅葉さんの作品です。きっと作者には雪の音が聴こえていたの

でしょう。京都は安政のときから幾分にもぎやかになりました。しかし、それでも雪には音があるようです。雪の降る京都御苑にいらしたときは、ぜひ雪のささやきを聴いてみてください。参考資料:宮内庁HP(京都)「御所と離宮の築(其の十九)」



御所築地堀と清水谷家の棟

京都御苑の自然に想う

京都自然観察学習会の方々が想いやその価値を語る。



自然観察学習会のメンバーは「自然教室」の講師としても活躍

京都御苑は世紀を跨いだ巨大なビオトープ

片山雅男

京都市民は、京都御苑一帯を親しみを込めて「御所」と呼んできた。誰もが気兼ねなく、自然と歴史に直に触れ合える敷居の低さが魅力である。公家屋敷が撤去され、さまざまな樹木が植栽されて百四十年を経た今、苑内を歩いてみると、江戸時代から生きながらえてきた植栽とともに、外国産も含めて新しく加わった草木が混然一体となつて共存している姿が見られる。

御苑の自然教室(観察学習会)では、その暮らしぶりの一端を紹介しているが、新たな発見に驚かされることも多い。この感動をより多くの人と分かち合えることを願っている。(京都自然観察学習会／神戸教育短期大学名誉教授)



大文字山から望む街、入江に緑の船が浮かんでいるような風景

街に浮かぶ緑の方舟を知っていますか? 河合嗣生

京都市の東から北につながる東山連邦の一角・大文字山から街を望むと、北山から流れ出る賀茂川・高野川に沿って上賀茂神社、下鴨神社がある。さらに麓には琵琶湖疏水分線・哲学の径と吉田山の緑塊も目につく。そのような街の中心にある京都御苑は、あたかも入江に佇む強大な緑の船のようだ。その船を「生きものの駆け込み寺」と称することもある。渡り鳥をはじめ多くの生きものが目指す島であり、安堵の場であり、まさに生活の場がある。そこに暮らす全ての生きもの達も京都市民の一員であると思う。

生きもの達が醸し出す日常の生活と自然の複雑さは面白い。(京都自然観察学習会／環境カウンセラー)

越冬する昆虫を探そう

谷 幸樹

京都御苑には、四季を通して多種多様な昆虫が生息しています。御苑では、約四十種のトンボを確認しています。

成虫で冬を越すトンボは、オツネトンボ、ホソミイトトンボの三種のみですが、この三種を御苑で確認しています。天気の良い日に運がよければ、この成虫を観察できます。

昆虫が越冬する時は、種によって卵・幼虫・蛹・成虫の姿で過ごします。冬の御苑で昆虫探しをするのも楽しいですね。(京都自然観察学習会)



ホソミオツネトンボ

生物共生の森「京都御苑」はきのこの宝庫

佐野修治

「御所集合く」子ども時代、わんぱく仲間と広い御所に集結して遊んでいた。

子育て時代、よちよち歩きの息子が苑内の緑の草地で真っ赤なきのこを見つけ、小さな指で赤い傘を突きながら歩く姿を見て以来、御所は私の「きのこ教室」となった。



タマゴタケの幼菌

京都の中心街に広がる平坦な森、「国民公園京都御苑」の緑豊かな空間は動植物菌類の貴重な生息生育の場となっている。永遠に子々孫々に引き継がなければならぬ京都の宝だと思ふ。(京都自然観察学習会／京都御苑きのこ会)

自然教室は触れ合いの場

西台律子

京都御苑で開催される自然教室は、参加者の皆様と直接触れ合えるチャンスでした。質問だけでなく感想も聞けます。生きものに触れ合い、共感する楽しさがありました。共感を感じ動をより印象的なものにしていきます。苑内を散策すると、日々発見、日々感動の連続です。自然教室で野鳥以外の生きものを学んできたおかげで小学校の授業で、「先生なんでも知ってるなあ」と驚かれます。参加者の方々も家族や知人に驚かれる経験をされたことと思います。

知識だけでなく感動が伴っていると、必ず相手に伝わっていく楽しさを大切にしていきたいと思えます。(京都自然観察学習会)